

□口繪原色版はワツトマン四ツ切にし、日本水彩畫會研究所に於ける習作に御座候

□寫真版『相思樹』は四ツ切『盛夏』は二ツ切『ウエニス』の夏は四ツ切より稍小なるものに候

□次號には石川欽一郎氏の習作『臺灣人の顔』、並びに眞野紀太郎氏の『初秋の花』の原色版、及大橋正義氏の『榛名湖』の石版、他に寫真版として太平洋畫會出品の水彩畫兩三點を出すべく候

□記事には小島烏水氏の『最新水彩畫法序文』、大下氏の『靜物寫生の話』、アルフレッドハルソンス氏の『日本雜觀』、其他にして小島氏の『ラスキン山岳論』の續稿は十月號より必ず登載可致候

## 近事

▲日本水彩畫會研究所六月例會は二十七日開會午前眞野講師の透視畫法講話、午後出品二百餘點の水彩畫に對する河合、岡、丸山、永地、大下諸氏の批評あり、今回

は一般の成績殊によるしく、相田寅彦氏の靜物、並に並木富太郎氏の風景は賞を得たり。なほ、デッサンのコンクールは、一等赤城泰舒氏、二等水野以文氏なりし。同茶話會の席にて丸山氏は、信州岩管山麓高原の風景を紹介されたり、同地には温泉もあり、宿料も低廉、澁温泉場より僅かに山道二里半、交通も不便にあらず、沼澤あり深林ありて、寫生の材料は極めて豊富なりといふ。

## 紹介

◎夏休練習帖 尋常小學第一學年より六學年迄 菊判六十餘頁、巻頭に夏休みの心得あり、次には一面に學力に應じてあらゆる學科の練習に供し、他の一面には日誌を記するやうになり居れば、兒童をして暑中休暇を無益に費消せしめず日々の練習を怠りなく行はしめんには、此書の如きは缺くべからざるものならん（一部十錢、神田區表神保町同文館發行）  
◎東洋藝術資料 日本美術社に於て發行の企あるもの、内容の詳細は次號に發表すべし。

## 問に答ふ

□一 獨りて研究して出來たものを先生の處へ持參して見て貰ふのと、研究所へ入ると何れが早く上達しますか  
二 洋畫の一通りを研究する順序、初めは何終りは何を習つたら、畫道を一通研究したと言ふことが出來ますか  
三 青梅に於ける講習會の記事は『みづゑ』何號にありや（日本橋和輝生）  
◎一 獨習は萬止むを得ざる人の取るべき手段なり、研究所に於て正則の教育を受くるに如かず、其遲速の差の如き到底比較にならず  
二 鉛筆若くは木炭が始めなり、油繪水彩パステル等が出來たら一通りの技術は修めたりといふを得べし  
三 『みづゑ』七十八等にあり、何れも本會には品切  
一 『みづゑ』五十號の『畫室のうち』の老人其他の人の名を問ふ  
二 同三十八號林威三氏の風景は何處なりや  
三 洋畫、に關する書物は研究者として是非讀まればならぬものにや（鉛筆スケッチ生）  
◎一 老人は鈴木氏、青年は森島氏、婦人は竹内



嬢なり二 愛知縣下なれど場處は不明三  
必ずしも讀むに及ばず、理論よりも實  
行を先にせよ、讀んで益ある書と無益な  
るものとあり選擇を要す『みづゑ』五十

の口繪、CHANCE の意味を問ふ(周子)  
◎蒲公英の實を吹いて居る圖にて、こゝ  
に現はれたる他に何の意味ありや不明  
■肉筆水彩畫を借受くるに、會友規定に  
五圓の擔保金を要すとあり、『みづゑ』會  
告には貳圓十錢とあり、何れが信實か、こ  
れは僕のみならず多くの會員諸君も迷ふ  
事であらうにと思ふ、幹部諸先生の御考  
いは?(北海の迷子)◎迷ふのは君たゞ一  
人ならん、會告にある頑つといふ文字は  
譲るといふことで、貸すといふ意味更に  
なし■一、美術新報、二 日本美術、三美  
術學校々友會月報の定價發行所(石川義  
春)◎一は定價五錢毎月二回東京本郷湯  
島切通坂上畫報社、二は二十五錢毎月一  
回本郷駒込富士前町日本美術社、三は非  
賣品■『みづゑ』特別號として旅行のみ  
の分ありときく、何號なりや(A B 生)◎  
第六は『赤城の旅』、第十四及十六は『飛

驛紀行』、第三十六は『小笠原紀行』、第四  
十四は『尾瀨紀行』、第六を除き他は殘本  
あり

### 讀者の領分

■油繪用品、繪具十五色、筆三本、パレ  
ットナイフ、パレット、リンシード油一  
罇、パレット用油壺、スケツチ板四枚右  
一二度使用したまだ新しきもの送料共金  
四圓にて譲る、他に『みづゑ』五十號讓受  
たし(山口縣豊浦郡勝山村楠乃石川義春)  
■御芳筆を賜はりし諸兄姉よ引續き  
御惠みを願ふ又昨年ハガキ文學全部水  
彩畫油繪と御交換下さい(米澤市免許町  
下一三〇八佐藤周子)◎このやうなのが  
意味不明なり書物が入用なのか繪が入用  
なのか■田舎住居の我が爲めに自筆水  
彩繪葉書の交換を願ふ乍拙筆必ず返葉す  
(三河國三好野々山彦三郎)■前號の  
『みづゑ』を一寸、展覽會評は穩健、穂高  
山紀行は快文字に繪も何れも結構あの雪  
の山を見ると三伏の暑さは何處へか往つ  
て仕舞ふやうだ(好畫道人)■葉書形  
スケツチ箱格安に譲りたし但未使用品、

次に肉筆水彩葉書の交換を乞ふ必ず返葉  
す(相州鎌倉長谷堀谷紫海生)■三脚、  
水筒、油繪具及洋畫講義録一、二、四、五、  
六、七號安價讓りたし(長野市花咲町齋  
藤就一)■肉筆スケツチ水彩畫の交換  
を乞ふ四日以内必ず返葉(横濱市西戸部  
町六六五、菱沼猛)■眞面目なる肉筆  
水彩葉書の交換を乞ふ(神奈川町字二ツ  
谷九四四、山上義正)■大阪三越の展覽  
會の廣告は夢にはあらずやと喜び見物致  
候、生れて始めて諸先生の大作を拜し候  
「木崎湖」の大幅、その黙して語らざる森、  
死せるが如く靜まる水!浮草!神秘を小  
生の胸に注入するが如く覺え候、其他大  
橋先生の熟達したる穩やかなる筆、丸山  
先生の剛健の繪、河合先生の『藪』これは  
小生が幾度か試み幾度か失敗したるも  
の、成程と合點致候赤城先生の『あらしの  
後』『みづゑ』にて拜見せしが原色版その  
まゝにて大に原色版の有難きを感じ申候  
(向井寛三郎)■廣く肉色繪葉書の交換を  
乞ふ(巖手師範、菅原藤花)■『みづゑ』に  
木炭畫の傑作を出されたし(北海の讀者)